

中村直人 モニュメンタル／オリエンタル

中村直人(1905～1981年)は、長野県小県郡神川村(現・上田市)に生まれた芸術家。少年期に山本鼎の勧めによって彫刻家となり、次第に院展で認められるようになり。しかし1952年に一転、家族でパリに移住し、今度は東洋の色彩のグアッシュ*作品により好評を博するようになります。帰国後は二科展の会員となり、彫刻、絵画、版画など数多くの作品を手掛け、哀愁漂う女性像や裸婦像によってそのイメージを定着させました。晩年には目黒区にアトリエを構えて旺盛に作品を制作し続け、二科展の内閣総理大臣賞を受賞しています。本展では、中村直人の作品・資料をはじめ、直人に影響を与えた諸作家の作品も併せて展示。戦時中に制作された大型の記念碑的(モニュメンタル)な彫刻作品や、ヨーロッパで人気を得たオリエンタリズムあふれる絵画を通して、直人の異色の生涯をご紹介します。

*不透明水彩絵の具のこと。



《草薙剣》1941年(静岡市立登呂博物館)



《(仮題)《笛を吹く女》1952-64年(上田市立美術館)

年譜

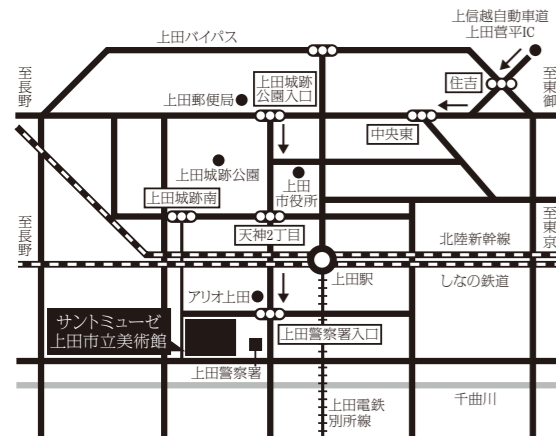
- 1905年 長野県小県郡神川村(現・上田市)に生まれる。
- 1919年 山本鼎提唱「農民美術講習会」が神川小学校にて開催。実兄中村實参加、直人も彫刻家を志す。
- 1920年 日本美術院(院展)彫刻部同人・吉田白嶺の木心舎に入門。
- 1926年 再興第13回院展に木彫《清韻》初入選。
- 1929年 再興第16回院展に木彫《女子立像》等入選。翌年の再興第17回院展にて《道化役者》入選。
- 1936年 日本美術院同人に推挙される。
- 1937年 横山大観の推薦により通信員として中国大陸各地を視察。
- 1942年 真珠湾攻撃戦没《九軍神》像制作、のちに東郷神社に奉納される(戦災消失)。
- 1947年 戦争協力者に対する糾弾が高まり、同じく批判を受けていた藤田嗣治と親交を深める。
- 1952年 藤田嗣治を頼り、パリへと出国。
- 1953年 パリでの画家としての個展が成功。「ナオンドはパリを征服しにやってきた」などと称賞される。
- 1964年 帰国。滞仏作品展を各地で開催。
- 1965年 第50回二科展に《横臥する裸婦》等招待出品、会員に推挙される。
- 1971年 第56回二科展にて《裸婦》が青児賞受賞。
- 1980年 第65回二科展にて《会合》が内閣総理大臣賞受賞。
- 1981年 敗血症にて死去。享年75歳。



《ピエロー一家》1954年(株式会社大丸松坂屋百貨店)



《裸婦(やすらぎ)》1971年(個人蔵)



サントミューゼ
上田市立美術館 Ueda City Museum of Art
〒386-0025 長野県上田市天神3-15-15 TEL0268-27-2300
ホームページ <https://www.santomyuze.com/museum/>
休館日:火曜日(祝日に当たる場合は翌日)

アクセス
■北陸新幹線、しなの鉄道、上田電鉄別所線「上田駅」から徒歩約7分
■上信越自動車道「上田菅平IC」から車で約15分

Naondo Monumental / Oriental



《ジャポネーゼ》1950年代 小杉放菴記念日光美術館

中村直人 モニュメンタル／オリエンタル

1950年代パリ、画家として名を馳せた“彫刻家”

2023年4月15日(土)～6月11日(日)

火曜日休館 ※午前9時から午後5時まで(入館は午後4時30分まで)

サントミューゼ 上田市立美術館

一般:1,000円(900円) 高校・大学生:500円(400円) 小・中学生:300円(200円) ()内は20名以上の団体料金
[前売り] 一般のみ800円 上田市立美術館ミュージアムショップで3月15日(水)から販売
※障害者手帳携帯者は半額、介助者1名は無料 ※未就学児は無料 ※常設展示室の山本鼎コレクションもご覧いただけます。

主催/中村直人展実行委員会・上田市・上田市教育委員会 共催/信濃毎日新聞社、SBC信越放送 共同企画/目黒区美術館



なかむら なおんど 中村直人の一生

彫刻家を目指して

中村直人は、1905（明治38）年、長野県小県郡神川村（現・上田市）の養蚕農家に生まれます。兄は芸術家・山本鼎が開いた農民美術講習会第1回生の中村實。大正デモクラシーの影響色濃い上田で育ちました。1920（大正9）年には、兄・實の勧めと山本鼎の紹介により、木彫家・吉田白嶺の木心舎に入門します。丹念な人物の描写や、力強い猛禽類の彫り方には、師匠であった吉田白嶺の影響が表れています。

21歳になると、国内屈指の美術団体・日本美術院（院展）で初入選を果します。1936（昭和11）年には、院展務め内の最上位の地位に当たる同人（審査員を兼ねる立場）に推挙されるまでになりました。



《手品師》1932年（個人蔵）



《町娘》昭和初期（上田市立美術館）

戦時期を象徴する モニュメンタルな作品づくり

1937（昭和12）年10月、日中戦争が勃発すると、直人は従軍を志願します。日本画家・横山大観の支援を得て通信員となった直人は、現地の様子を日本の雑誌や新聞で紹介する絵を描きながら、中国

の風景・風俗をひたすらスケッチしました。

また、軍の依頼もあり、兵士をモデルとした彫刻や、《防人》など時代を象徴するような記念碑的な大型作品を制作し始めます。旺盛に発表し続ける作品は独創的で、日本軍をモチーフとした《暁の進軍》ではエジプトやギリシャなど、古代の立体表現も取り入れられています。



《大同雲崗鎮石仏》1930年代（上田市立美術館）



《防人》1938年（愛知県美術館）

フランスにて、 オリエンタルな絵画で有名に

ところが、終戦になってから藤田嗣治（後のレオナール・フジタ）と親交を深めるようになった直人は、藤田の強い勧めを受けてパリに引越してしまいます。戦後の落ち着かない日本で、芸術の本場フランスに追従するような制作を続けているよりも、現地に乗り出していきたい、と考えた直人。1952（昭和27）年、一家をあげてパリへ移り住むことにしたのでした。

パリに渡った直人はしばらくホテル住まいをしていましたが、狭い部屋では思うように彫刻の制作ができず、次第に絵を描くようになります。そこで注目した画材が不透明水彩絵の具・グアッシュでした。直人は厚塗りに適したグアッシュの特性を活かし、描いては紙を丸め、その上からまた絵の具を塗り重ねていき、わざとひび割れを起こして下の色を覗かせるという、独自の技法を編み出します。それによって生まれ

ナオンド・ナカムラは パリを征服しにやってきました

1953（昭和28）年、パリ

た奥深い絵肌が功を奏し、1953年、パリの画廊で開いた個展は大変な評判となり、地元の新聞で「ナオンド・ナカムラはパリを征服しにやってきました」と絶賛されることとなりました。

渡仏後の直人は、東洋的・日本的なモチーフにも積極的に取り組んでいます。和服や仏教の五色（青（緑）・黄・赤・白・黒）を思わせる色使いは強烈に人の目をひきつけました。

また、彫刻家としての基盤をもつ直人は、平安時代や鎌倉時代の仏教美術に深い興味を示し、仏像の造形から身体の立体表現を学んでいました。作品を見ると、平面作品にもその経験が活かされていることが分かります。



《大原女》1956年（長野県立美術館）



《クルン》1960年（上田市立美術館 [森工房コレクション]）

日本への帰国

パリ在住12年の間に国際的な画家としての地位を築いた直人は、1964（昭和39）年に日本に帰国します。東京・銀座で開催した滞仏絵画展は大評判を呼び、日本画壇への晴れやかな復帰となりました。1965年、大正初めから続く二科会に会員として招待され活躍し、1980年には二科展最高賞である総理大臣賞を受賞。翌年にこの世を去るまで、芸術家として活動し続けた人生でした。



《会合》1980年（長野県立美術館）

関連イベント



ギャラリートーク

日時：4月22日(土)、6月4日(日) 各日午後3時～
参加料：観覧券をお求めください
※申込み不要

夜のさんぽミュージーゼ(夜間観覧)

日時：5月12日(金) 午後6時～8時まで
定員：20名
参加料：観覧券をお求めください

美術館講座

「地域の彫刻を知る」バスツアー 直人編

日時：5月21日(日)
定員：15名（最低催行人数5名）
対象：小学生以上（中学生以下は保護者同伴）
参加料：1,000円 ※学生は半額、保険料込、食事代別

ワークショップ

アクリル絵の具で直人体験!

日時：5月28日(日) 午前10時～12時半
定員：20名
対象：中学生以上
参加料：500円



※イベントは要事前申込み。詳細は3月末までに当館HPに掲載します。

| 特 | 別 | 企 | 画 |

母の日5/14(土)、父の日6/11(日)に親子でご来場いただくと、先着10組(ペア)に、館内カフェのドリンク券(400円分)をプレゼントいたします。

※館内ロジェカフェ 営業時間10:00～15:00
※当日入場の方のみ ※招待券入場者のはぞく